

習志野市公共下水道ストックマネジメント計画

習志野市都市環境部下水道課

平成 30 年 4 月

1. スtockマネジメント実施の基本方針

本市の公共下水道は、昭和 40 年度に下水道基本計画を策定し、下水道の整備を進めてきたところであり、平成 28 年度末時点における下水道による汚水処理普及率は 94.8%、下水道整備率は汚水 79%、雨水 56%まで進捗し、現有の下水道施設は管路施設約 511km、処理場 1 箇所（津田沼浄化センター）、ポンプ場 2 箇所（秋津汚水中継ポンプ場、袖ヶ浦汚水中継ポンプ場）となっている。

管路施設においては、標準耐用年数 50 年を超過している施設割合が約 6%（約 30km）であり、今後 20 年で 50%以上が標準耐用年数を超過する状況であり、処理場、ポンプ場においても、日常点検や定期点検、長寿命化対策等を適宜実施してきているが、長期使用の結果、消耗、腐食による劣化、老朽化、陳腐化が進行している。

すべての下水道施設においては代替施設が存在しないため、施設の不具合・異常が発生した場合、機能停止による市民生活への支障、汚水流出等による環境被害、管路破損等による道路陥没等のリスクを抱えている。

このことから、施設を将来にわたり適切な管理を維持管理と効率的かつ効果的な改築・更新の実施に向けて、施設の管理区分、維持管理方針及び点検調査頻度、改築の判断基準、施設の目標対年数の設定、改築実施計画について定めたものです。

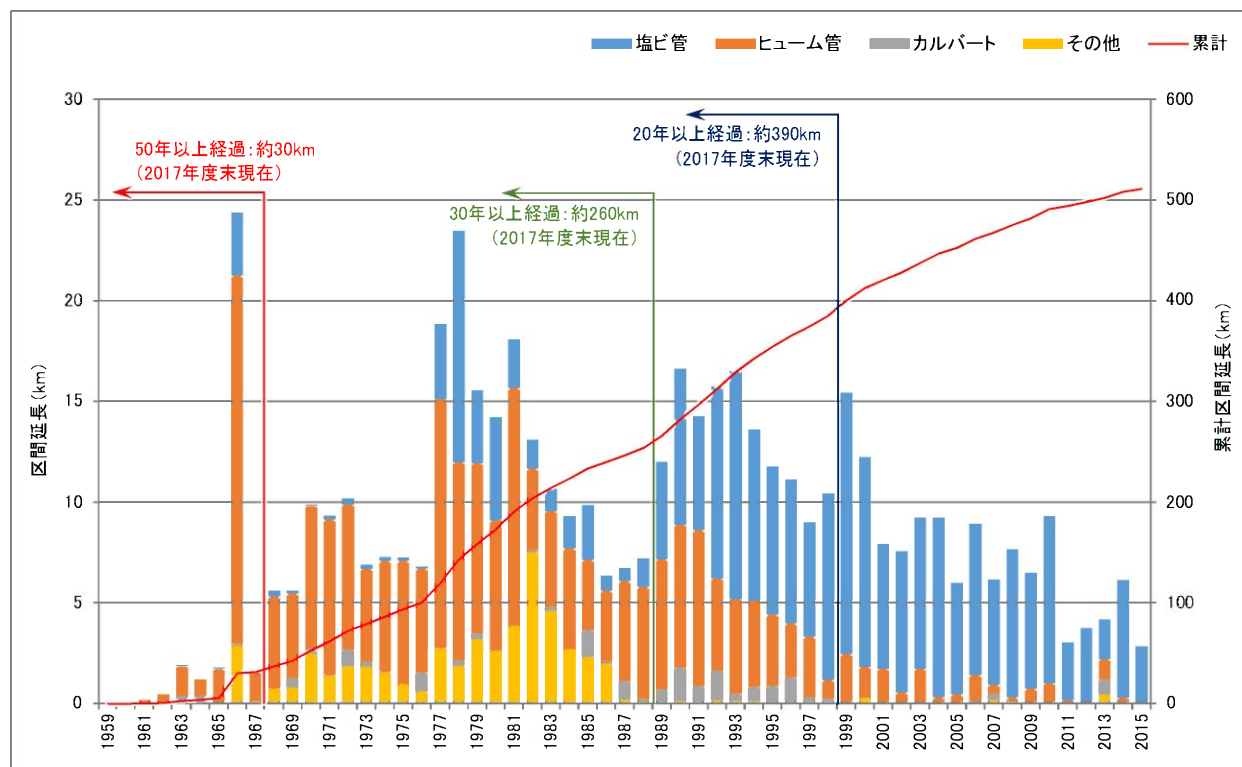


図 1 習志野市 管路整備延長の推移

《施設の管理区分の設定方針》

ストックマネジメントの実施にあたり、下水道施設の特性や機能、予算の縮減及び平準化等を考慮し、効率的な施設管理方法を設定する。管理方法は、予防保全（状態監視保全・時間計画保全）と事後保全に区分され、以下に示すとおりである。

【状態監視保全（予防保全型）】

機能上、重要な施設であり、調査により劣化状況の把握が可能である施設を対象とする。

《管路施設》

管路施設の劣化の予兆を把握するために点検・調査を実施し、管路施設の状態に応じた対策を行う。点検・調査の頻度として、施設の重要性・布設環境を考慮し、①腐食環境下（腐食のおそれがある施設）、②一般環境下（幹線）、③一般環境下（枝線）ごとに設定した。

点検・調査の対象施設は、管きょ、マンホール、マンホール蓋とする。

施設分類、維持管理頻度については、次章「2. 施設の管理区分の設定」を参照とする。

《処理場・ポンプ場施設》

污水ポンプ設備、スクリーンかす設備、反応タンク設備、高度処理設備、雨水ポンプ設備、雨水滞水地・調整値設備、塩素混和池設備、最初沈殿池設備、最終沈殿池設備、汚泥濃縮設備、汚泥貯留設備、汚泥脱水設備、用水設備、脱臭設備 等

※ 状態監視保全とは、「施設・設備の劣化状況や動作状況の確認を行い、その状態に応じて対策を行う管理方法をいう。

【時間計画保全（予防保全型）】

機能上、重要な施設であるが、劣化状況の把握が困難である施設を対象とする。

《管路施設》

管路施設の劣化の予兆が測れないため、一定周期（目標耐用年数等）ごとに対策を行う。劣化状況の把握・不具合発生時期の予測ができない圧送管（単条管）を対象とする。

施設分類、維持管理頻度については、次章「2. 施設の管理区分の設定」を参照とする。

《処理場・ポンプ場施設》

受変電設備、柱状開閉器設備、自家発電設備、制御電源及び計装用電源設備、蓄電池、負荷設備、計測設備、監視制御設備、消火災害防止設備・照明設備（法定点検） 等

※ 時間計画保全とは、「施設・設備の特性に応じて予め定めた周期（目標耐用年数等）により対策を行う管理方法をいう。

【事後保全】

機能上、影響が小さい等、重要度が低い施設を対象とする。

《管路施設》

異状等の発生後に対策を行うため、異状の兆候、機能低下や事故の発生後に対策を行う。不具合が発生した場合、流下機能への影響が小さく（応急復旧可能）、対応時の予算への影響が小さい取付管、公共枿を対象とする。

施設分類、維持管理頻度については、次章「2. 施設の管理区分の設定」を参照とする。

《処理場・ポンプ場施設》

土木・建築付帯（蓋・手摺・タラップ類等）、ゲート設備、バルブ類、クレーン類物あげ設備、作業用電源盤 等

※ 事後保全とは、「施設・設備の異常の兆候（機能低下等）や故障の発生後に対策を行う管理方法をいう。

2. 施設の管理区分の設定

基本方針に基づき、各施設の管理区分を以下のとおり設定する。

1) 状態監視保全施設（予防保全型）

【管路施設】

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
管渠・マンホール	1回/5年の頻度で点検を実施。 1回/10年の頻度で調査を実施。	緊急度Ⅰ及びⅡで改築を実施。	圧送管吐出し先など腐食環境下の最重要管理路線
管渠・マンホール	1回/20年の頻度で調査を実施。	緊急度Ⅰ及びⅡで改築を実施。	一般環境下の重要管理路線（幹線）
管渠・マンホール	1回/30年の頻度で調査を実施。	緊急度Ⅰ及びⅡで改築を実施。	一般環境下の通常管理路線（枝線）
マンホール蓋	1回/10年の頻度で点検を実施。	緊急度Ⅰ及びⅡで改築を実施。	一般環境下の重要管理路線（幹線）
マンホール蓋	1回/15年の頻度で点検を実施。	緊急度Ⅰ及びⅡで改築を実施。	一般環境下の通常管理路線（枝線）

【処理場・ポンプ場施設】

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
汚水ポンプ設備 (ポンプ本体、電動機) スクリーンかす設備 (自動除塵機) 反応タンク設備 (送風機本体、電動機) 高度処理設備 (ポンプ本体、電動機)	1回/7年の頻度で分解調査。	健全度 2 以下で改築を実施。	
雨水ポンプ設備 (ポンプ本体、電動機) 雨水滞水池・調整池設備 (ポンプ本体、電動機)	1回/10年の頻度で分解調査。	健全度 2 以下で改築を実施。	
塩素混和池設備 (薬品注入機)	1回/5年の頻度で調査を実施。	健全度 2 以下で改築を実施。	
最初沈殿池設備 (汚泥掻き寄せ機) 最終沈殿池設備 (汚泥掻き寄せ機)	1回/7年の頻度で、水抜き調査により点検実施。	健全度 2 以下で改築を実施。	
汚泥濃縮設備 (汚泥掻き寄せ機、汚泥ポンプ本体、機械濃縮機) 汚泥貯留設備 (機械式攪拌機、汚泥ポンプ本体) 汚泥脱水設備 (汚泥供給ポンプ本体、汚泥移送コンベヤ、薬品溶解装置)	1回/10年の頻度で調査を実施	健全度 2 以下で改築を実施。	
汚泥脱水設備 (汚泥脱水機)	1回/7年の頻度で分解調査を実施。	健全度 2 以下で改築を実施。	
用水設備	1回/10年の頻度で調査を実施。	健全度 2 以下で改築を実施。	
脱臭設備	1回/5年の頻度で調査を実施。	健全度 2 以下で改築を実施。	

2) 時間計画保全施設（予防保全型）

【管路施設】

施設名称	目標耐用年数	備 考
管きよ：圧送管（単条管）	標準耐用年数（50年）	

【処理場・ポンプ場施設】

① 津田沼浄化センター

施設名称	目標耐用年数	備 考
受変電設備	標準耐用年数の1.5倍(30年)	
柱上開閉器設備	標準耐用年数の1.0倍(15年)	
自家発電設備	標準耐用年数の1.5倍(23年)	
制御電源及び計装用電源設備 (≡UPS)、蓄電池	標準耐用年数の1.5倍(10～15年)	
負荷設備（コントロールセンタ）	標準耐用年数の1.5倍(23年)	
負荷設備（回転数制御装置）	標準耐用年数の1.5倍(15年)	
計測設備	標準耐用年数の1.5倍(15年)	
監視制御設備 (シーケンスコントローラ・CRT)	標準耐用年数の1.5倍(15年)	
監視制御設備 (現場盤・リレー盤・計装計器盤)	標準耐用年数の1.5倍(23年)	
監視制御設備 (通信装置)	標準耐用年数の1.0倍(10年)	
消火災害防止設備・照明設備 (法定点検)	標準耐用年数の1.5倍(23年)	

② 袖ヶ浦污水中継ポンプ場

施設名称	目標耐用年数	備考
受変電設備	標準耐用年数の 1.5 倍 (30 年)	
柱上開閉器設備	標準耐用年数の 1.0 倍 (15 年)	
自家発電設備	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	
制御電源及び計装用電源設備 (≒ UPS)、蓄電池	標準耐用年数の 1.5 倍 (10~15 年)	
負荷設備 (コントロールセンタ)	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	
負荷設備 (回転数制御装置)	標準耐用年数の 1.5 倍 (15 年)	
計測設備	標準耐用年数の 1.5 倍 (15 年)	
監視制御設備 (シーケンスコントローラ・CRT)	標準耐用年数の 1.5 倍 (15 年)	
監視制御設備 (現場盤・リレー盤・計装計器盤)	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	
監視制御設備 (通信装置)	標準耐用年数の 1.0 倍 (10 年)	
ケーブル・配管類	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	

③ 秋津污水中継ポンプ場

施設名称	目標耐用年数	備考
受変電設備	標準耐用年数の 1.5 倍 (30 年)	
柱上開閉器設備	標準耐用年数の 1.0 倍 (15 年)	
自家発電設備	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	
制御電源及び計装用電源設備 (≒ UPS)、蓄電池	標準耐用年数の 1.5 倍 (10~15 年)	
負荷設備 (コントロールセンタ)	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	
負荷設備 (回転数制御装置)	標準耐用年数の 1.5 倍 (15 年)	
計測設備	標準耐用年数の 1.5 倍 (15 年)	
監視制御設備 (シーケンスコントローラ・CRT)	標準耐用年数の 1.5 倍 (15 年)	
監視制御設備 (現場盤・リレー盤・計装計器盤)	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	
監視制御設備 (通信装置)	標準耐用年数の 1.0 倍 (10 年)	
ケーブル・配管類	標準耐用年数の 1.5 倍 (23 年)	

3) 事後保全施設（事後保全型）

以下の施設（主要な施設）については、事後保全の管理区分とする。

【管路施設】

施設名称	理由
取付け管 公共樹	—

【処理場・ポンプ場施設】

① 津田沼浄化センター

施設名称	理由
土木・建築付帯（蓋・手摺・タラップ類 等） ゲート設備、バルブ類 クレーン類物あげ設備 作業用電源盤	—

② 袖ヶ浦汚水中継ポンプ場

施設名称	理由
土木・建築付帯（蓋・手摺・タラップ類 等） ゲート設備、バルブ類 クレーン類物あげ設備 作業用電源盤	—

③ 秋津汚水中継ポンプ場

施設名称	理由
土木・建築付帯（蓋・手摺・タラップ類 等） ゲート設備、バルブ類 クレーン類物あげ設備 作業用電源盤	—

4. 改築実施計画

1) 計画期間 平成 30 年度 ～ 平成 34 年度

2) 個別施設の改築計画

【管路施設】

点検調査結果に基づき、改築対象施設を決定する。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理区・排水区の名称	合流・汚水・雨水の別	対象施設	布設年度	供用年数	対象延長	概算費用 (百万円)	備考
—	—	—	—	—	—	—	—

【処理場施設】

津田沼浄化センター

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理場・ポンプ場等の名称	合流・汚水・雨水の別	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万)	備考 (工事年度)
津田沼浄化センター【機械設備】							
送風機設備	汚水	No.1送風機(1系)	S58	34		19.9	H32～H33
		No.2送風機(1系)	S58	34		239.7	H32～H33
		No.3送風機(1系)	H1	28		196.6	H32～H33
		No.4送風機(1系)	H7	22		257.6	H32～H33
水処理設備	汚水	1系NO1生汚泥引抜ポンプ ^o	S58	34		8.9	H33～H34
		1系NO2生汚泥引抜ポンプ ^o	S58	34		8.9	H33～H34
		2系NO1生汚泥引抜ポンプ ^o	H8	21		8.9	H33～H34
		2系NO2生汚泥引抜ポンプ ^o	H8	21		8.9	H33～H34
		1系NO1返送汚泥ポンプ ^o	S58	34		17.7	H33～H34
		1系NO2返送汚泥ポンプ ^o	S58	34		17.7	H33～H34
		1系NO3返送汚泥ポンプ ^o	H2	27		17.7	H33～H34
		1系NO4返送汚泥ポンプ ^o	H2	27		17.7	H33～H34
		1系NO1余剰汚泥ポンプ ^o	S58	34		12.9	H33～H34
		1系NO2余剰汚泥ポンプ ^o	S58	34		12.9	H33～H34
		1系NO3余剰汚泥ポンプ ^o	H2	27		12.9	H33～H34
		2系NO1余剰汚泥ポンプ ^o	H8	21		12.9	H33～H34
2系NO2余剰汚泥ポンプ ^o	H8	21		12.9	H33～H34		
機械設備 計						884.7	

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理場・ポンプ場等の名称	合流・汚水・雨水の別	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用(百万)	備考(工事年度)
津田沼浄化センター【電気設備】							
送風機設備	汚水	ZPC盤(汚泥処理棟)	S59	33		10.0	H33～H34
		送風器引込盤(汚泥処理棟)	S59	33		10.0	H33～H34
		1号送風機盤 HM01	S59	33		10.0	H33～H34
		2号送風機盤 HM02	S59	33		10.0	H33～H34
		3号送風機盤 HM03	H1	28		10.0	H33～H34
		4号送風機盤 HM04	H7	22		10.0	H33～H34
		送風機設備 コントロールセンタ_CC-2-1_CM01～08	S59	33		120.0	H33～H34
		1号送風量計	S59	33		2.5	H33～H34
		2号送風量計	H17	12		2.5	H33～H34
		3号送風量計	S59	33		2.5	H33～H34
		4号送風量計	H7	22		2.5	H33～H34
		主管送風圧力計	S59	33		1.2	H33～H34
		主管送風温度計	S59	33		0.5	H33～H34
		1号吸込温度計	S59	33		0.5	H33～H34
		4号送風機設備シーケンスコントロール盤 AM13	H7	22		35.0	H32～H33
		1号送風機現場操作盤 SM01	S59	33		1.8	H32～H33
		2号送風機現場操作盤 SM02	S59	33		1.8	H32～H33
		3号送風機現場操作盤 SM03	H1	28		1.8	H32～H33
		4号送風機現場操作盤 SM04	H7	22		1.8	H32～H33
		送風機冷却水 ポンプ現場操作盤 SM06	S59	33		1.8	H32～H33
送風機冷却塔現場操作盤 SM07	S59	33		1.8	H32～H33		
送風機室下部床排水ポンプ現場操作盤 SM08	S59	33		1.8	H32～H33		
送風機(1)-(3)補助継電器_RM01～03	S59	33		54.0	H32～H33		
電気設備 小計(1)						293.8	
水処理設備	汚水	水処理電力変換器盤(第1水処理棟) EE01	S59	33		3.5	H33～H34
		水処理棟制御電源分電盤(第1水処理棟) LE01	S59	33		3.5	H33～H34
		1系水処理設備コントロールセンタ(CC-3-1) CE01～08	S59	33		39.6	H33～H34
		1系水処理設備コントロールセンタ(CC-3-1) CE09～11	H1	28		29.7	H33～H34
		1系水処理設備コントロールセンタ(CC-3-2) CH01～03	S59	33		19.8	H33～H34
		2系水処理コントロールセンタ(CC-3-3) CF01-05	H7	22		29.7	H33～H34
		2-1号返送汚泥ポンプ盤 IF01	H7	22		18.0	H33～H34

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理場・ポンプ場等の名称	合流・汚水・雨水の別	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用(百万)	備考(工事年度)
津田沼浄化センター【電気設備】							
水処理設備	汚水	2-2号返送汚泥ポンプ盤 IF02	H7	22		18.0	H33～H34
		1-1号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		1-2号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		1-3号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		1-4号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		1-5号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		1-6号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		1-7号エアタン風量計	H1	28		2.5	H33～H34
		1-8号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		2-1号エアタン風量計	H1	28		2.5	H33～H34
		2-2号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		2-3号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		2-4号エアタン風量計	H20	9		2.5	H33～H34
		2系1エアタン風量計	H7	22		2.5	H33～H34
		2系2エアタン風量計	H7	22		2.5	H33～H34
		2系3エアタン風量計	H7	22		2.5	H33～H34
		2系4エアタン風量計	H7	22		2.5	H33～H34
		1,2系生汚泥流量計	S59	33		3.0	H33～H34
		1系返送汚泥流量計	S59	33		3.0	H33～H34
		1系余剰汚泥流量計	S59	33		3.0	H33～H34
		2系余剰汚泥流量計	H7	22		3.0	H33～H34
		1-1号エアタンDO計	H1	28		2.0	H33～H34
		1-3号エアタンDO計	H1	28		2.0	H33～H34
		1-5号エアタンDO計	H7	22		2.0	H33～H34
		1-8号エアタンDO計	H7	22		2.0	H33～H34
		2-1号エアタンDO計	H7	22		2.0	H33～H34
		2-3号エアタンDO計	H7	22		2.0	H33～H34
		1-3号エアタンORP計	H7	22		1.8	H33～H34
		1-8号エアタンORP計	H7	22		1.8	H33～H34
		2-3号エアタンORP計	H7	22		1.8	H33～H34

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理場・ポンプ場等の名称	合流・汚水・雨水の別	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用(百万)	備考(工事年度)
津田沼浄化センター【電気設備】							
水処理設備	汚水	1～2系生污泥濃度計	S59	33		4.0	H33～H34
		1系返送污泥濃度計	H20	9		4.0	H33～H34
		2系返送污泥濃度計	H7	22		4.0	H33～H34
		1,2系水処理設備用プロセスコントローラ盤 PE01	H20	9		35.0	H33～H34
		シーケンスコントローラ.3盤_AF01	H7	22		100.0	H33～H34
		1-1号初沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE01	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号初沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE02	S59	33		1.8	H33～H34
		1-3号初沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE03	S59	33		1.8	H33～H34
		1-4号初沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE04	S59	33		1.8	H33～H34
		1-5号初沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE05A	H1	28		1.8	H33～H34
		1-6号初沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE05B	H1	28		1.8	H33～H34
		1-1号初沈スクラム現場操作盤 SE06	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号初沈スクラム現場操作盤 SE07	S59	33		1.8	H33～H34
		1-3号初沈スクラム現場操作盤 SE08	H1	28		1.8	H33～H34
		1-4号初沈スクラム現場操作盤 SE09	H1	28		1.8	H33～H34
		1-1号分水可動堰現場操作盤 SE10	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号分水可動堰現場操作盤 SE11	S59	33		1.8	H33～H34
		1-3号分水可動堰現場操作盤 SE12	H1	28		1.8	H33～H34
		1-4号分水可動堰現場操作盤 SE13	H1	28		1.8	H33～H34
		1-1～4号污泥引抜弁現場操作盤 SE14	S59	33		1.8	H33～H34
		1-5～8号初沈污泥引抜弁現場操作盤 SE15	H1	28		1.8	H33～H34
		1-1～2号生污泥ポンプ現場操作盤 SE16	S59	33		1.8	H33～H34
		1-1号初沈床排水ポンプ現場操作盤 SE17	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号初沈床排水ポンプ現場操作盤 SE18	S59	33		1.8	H33～H34
		1-1号エアタン床排水ポンプ現場操作盤 SE19	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号エアタン床排水ポンプ現場操作盤 SE20	S59	33		1.8	H33～H34
		1-1・2号風量調節弁現場操作盤 SE22	S59	33		1.8	H33～H34
		1-3,4号風量調節弁現場操作盤 SE23	H1	28		1.8	H33～H34
		1-1号終沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE31	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号終沈污泥かき寄せ機現場操作盤 SE32	S59	33		1.8	H33～H34

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理場・ポンプ場等の名称	合流・汚水・雨水の別	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用(百万)	備考(工事年度)
津田沼浄化センター【電気設備】							
水処理設備	汚水	1-3号終沈汚泥かき寄せ機現場操作盤 SE33	S59	33		1.8	H33～H34
		1-4号終沈汚泥かき寄せ機現場操作盤 SE34	S59	33		1.8	H33～H34
		1-5号終沈汚泥かき寄せ機現場操作盤 SE35	H1	28		1.8	H33～H34
		1-1号終沈スカムスキマ現場操作盤 SE36	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号終沈スカムスキマ現場操作盤 SE37	S59	33		1.8	H33～H34
		1-3号終沈スカムスキマ現場操作盤 SE38	H1	28		1.8	H33～H34
		1-4号終沈スカムスキマ現場操作盤 SE39	H1	28		1.8	H33～H34
		1系-1返送汚泥ポンプ余剰汚泥ポンプ現場操作盤 SE40	S59	33		1.8	H33～H34
		1-3号余剰汚泥ポンプ現場操作盤 SE40B	S59	33		1.8	H33～H34
		1系-2返送汚泥ポンプ余剰汚泥ポンプ現場操作盤 SE41	S59	33		1.8	H33～H34
		1-1号返送汚泥流調節弁量現場操作盤 SE42	S59	33		1.8	H33～H34
		1-1号終沈床排水ポンプ現場操作盤 SE43	S59	33		1.8	H33～H34
		1-2号終沈床排水ポンプ現場操作盤 SE44	S59	33		1.8	H33～H34
		1-1号終沈(クロス)かき寄せ機現場操作盤 SE45	H1	28		1.8	H33～H34
		2-1-2号初沈汚泥かき寄せ機現場操作盤 SF01	H7	22		1.8	H33～H34
		2-3-4号初沈汚泥かき寄せ機現場操作盤 SF02	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1-2号初沈スカムスキマ現場操作盤 SF05	H7	22		1.8	H33～H34
		2-3-4号初沈スカムスキマ現場操作盤 SF06	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1号分水可動堰現場操作盤 SF09	H7	22		1.8	H33～H34
		2-2号分水可動堰現場操作盤 SF10	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1～4号初沈汚泥引抜弁現場操作盤 SF13	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1号初沈床排水ポンプ現場操作盤 SF16	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1-2号生汚泥ポンプ現場操作盤 SF15	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1号1号初沈床排水ポンプ現場操作盤 SF18	H7	22		1.8	H33～H34
		保守電源盤(2系初沈) SF20	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1-2号風量調節弁現場操作盤 SF21	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1-2号終沈汚泥かき寄せ機現場操作盤 SF23	H7	22		1.8	H33～H34
		2-3-4号終沈汚泥かき寄せ機現場操作盤 SF24	H7	22		1.8	H33～H34
		2-1-2号終沈スカムスキマ現場操作盤 SF27	H7	22		1.8	H33～H34
		2-3-4号終沈スカムスキマ現場操作盤 SF28	H7	22		1.8	H33～H34

(1) 処理場・ ポンプ場等の名称	(2) 合流・汚水・ 雨水の別	(3) 対象施設	(4) 設置年度	(5) 供用 年数	(6) 施設能力	(7) 概算費用 (百万)	(8) 備考 (工事年度)
津田沼浄化センター【電気設備】							
水処理設備	汚水	2-1号終沈床排水ポンプ現場操作盤 SF33	H7	22		1.8	H33~H34
		保守電源盤(2系初沈管廊) SF35	H7	22		1.8	H33~H34
		保守電源盤(2系終沈管廊) SF36	H7	22		1.8	H33~H34
		保守電源盤(2系終沈) SF37	H7	22		1.8	H33~H34
		1-1-2号処理水ポンプ現場操作盤 SH01	S58	34		1.8	H33~H34
		処理水切換弁現場操作盤 SL07	H7	22		1.8	H33~H34
		1系水処理(1)(2)補助継電器盤 RE01~02	S59	33		36.0	H33~H34
		1系水処理(3)補助継電器盤 RE03	H1	28		18.0	H33~H34
		2系水処理(1)(2)(3)補助継電器盤 RF01-03	H7	22		54.0	H33~H34
		2系水処理工計変換器盤 EF01	H7	22		2.5	H33~H34
		水処理工計変換器盤 EE02	S59	33		2.5	H33~H34
電気設備 小計(2)						602.8	
電気設備 計						896.6	(百万)
津田沼浄化センター 計						1,781.3	(百万)

袖ヶ浦汚水中継ポンプ場

(1) 処理場・ ポンプ場等の名称	(2) 合流・汚水・ 雨水の別	(3) 対象施設	(4) 設置年度	(5) 供用 年数	(6) 施設能力	(7) 概算費用 (百万)	(8) 備考 (工事年度)
袖ヶ浦汚水中継ポンプ場【建築電気設備】							
袖ヶ浦汚水 中継ポンプ場	汚水	非常照明_中継ポンプ場_B1F_ポンプ室	H9	19		0.4	H33
		非常照明_中継ポンプ場_B1F_脱臭_換気機械室	H9	19		0.4	H33
		非常照明_中継ポンプ場_1F_搬出入室	H9	19		0.6	H33
		非常照明_中継ポンプ場_1F_廊下	H9	19		0.2	H33
		非常照明_中継ポンプ場_1F_玄関	H9	19		0.2	H33
		非常照明_中継ポンプ場_1F_電気室	H9	19		0.2	H33
		受信機_中継ポンプ場_1F_電気室	H9	19		0.2	H33
		感知器-1_中継ポンプ場_B1F_脱臭_換気機械室	H9	19		0.1	H33
		感知器-2_中継ポンプ場_1F_電気室	H9	19		0.1	H33
		保安機収納箱_中継ポンプ場_1F_電気室	H9	19		0.1	H33
		電話機_中継ポンプ場_B1F_ポンプ室	H9	19		0.1	H33
		電話機_中継ポンプ場_1F_電気室	H9	19		0.1	H33
建築電気設備 計						2.7	(百万)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理場・ポンプ場等の名称	合流・汚水・雨水の別	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用(百万)	備考(工事年度)
袖ヶ浦汚水中継ポンプ場【電気設備】							
袖ヶ浦汚水中継ポンプ場	汚水	遮断器盤 引込受電盤 M1	H10	18		10.0	H33～H34
		変圧器盤 変圧器盤 M2	H10	18		8.0	H33～H34
		低圧分岐盤 低圧切換盤 L1	H10	18		6.0	H33～H34
		低圧分岐盤 低圧分岐盤 L2	H10	18		6.0	H33～H34
		発電機 ハッケーシ型発電装置	H10	18		22.0	H33～H34
		給気ファン 自家発給気ファン	H10	18		0.6	H33～H34
		消音器 排気消音器	H10	18		4.0	H33～H34
		消音器 ラジエーター排気消音器	H10	18		4.0	H33～H34
		消音器 給気消音器	H10	18		6.0	H33～H34
		燃料タンク 燃料小出槽	H10	18		1.0	H33～H34
		汎用ミニUPS バッテリーBOX	H10	18		1.0	H33～H34
		汎用ミニUPS ミニUPS	H10	18		1.0	H33～H34
		コントロールセンタ コントロールセンタ C01-02	H10	18		16.0	H33～H34
		流量計 送水流量計	H10	18		4.0	H33～H34
		レベル計 流入渠水位計	H10	18		2.2	H33～H34
		レベル計 No.1ポンプ井水位計	H10	18		2.2	H33～H34
		レベル計 No.2ポンプ井水位計	H10	18		2.2	H33～H34
		シーケンスコントローラ シーケンスコントローラ盤 P01	H10	18		36.0	H33～H34
		シーケンスコントローラ シーケンスコントローラ盤 P01	H10	18		36.0	H33～H34
		現場盤 流入バイパスオート現場操作盤 S01	H10	18		1.2	H33～H34
		現場盤 脱臭ファン現場操作盤 S02	H10	18		1.2	H33～H34
		現場盤 自家発給気ファン現場操作盤 S03	H10	18		1.2	H33～H34
		補助ルー盤 補助継電器盤 R01	H10	18		16.0	H33～H34
監視盤 現場総括盤 K01	H10	18		32.0	H33～H34		
遠方監視制御盤(親局・子局)	H10	18		50.0	H33～H34		
非常通報装置	H10	18		0.6	H33～H34		
電気設備 計						270.3	(百万)
袖ヶ浦汚水中継ポンプ場 計						273.0	(百万)

5. スtockマネジメントの導入によるコスト縮減効果

標準耐用年数で全てを改築した単純シナリオの場合と、健全度・緊急度等や目標耐用年数など、リスク評価を考慮した本Stock計画書に基づいて改築を実施した場合とを比較してコスト縮減額を算出した。

【管路施設】

概ねのコスト縮減額	資産の対象時期
1,204 百万円/年	概ね 100 年

【処理場・ポンプ場施設】

津田沼浄化センター、袖ヶ浦污水中継ポンプ場、秋津污水中継ポンプ場

概ねのコスト縮減額	資産の対象時期
446 百万円/年	概ね 100 年